秋の野鳥（耳をすませば）

野鳥を見られる季節で大きく分けるとりゅうちょう、夏どり、冬どり、旅どりとなります。りゅうちょうは同じ地域で年中見られる鳥です。夏どりは日本で子育てを終えると、冬を南の地方で過ごし、春になるとまた戻ってきます。冬どりは北の地方で子育てをし、秋になると南下してきて日本で冬を過ごします。

建物の多い大崎ですが、ビルの周りには緑地が、住宅には庭木があり、様々な野鳥が暮らしています。さらに秋になると南下の途中で立ち寄る鳥、旅どりもいます。スズメやカラスとは違う鳴き声が聞こえたら、そっと周りを探してみると思いがけない野鳥に出会えるかもしれません。

大崎で秋に見つけやすい2種類の野鳥（冬どり）

ジョウビタキ（オス）：

スズメくらいの大きさですが、家の上のアンテナなど高いところで「ヒッヒッ」と澄んだ声で鳴くので、見つけやすいです。オスの頭は白く、メスは薄い茶色。オスメスともに腹から尾はオレンジ色をしています。翼に白い斑点があるので「紋付きどり」と呼ばれることもあります。家の庭にピラカンサなどの実を食べに来ることもあります。

ツグミ：

ハトより小さく、ずっとスリムです。羽は赤茶色でおなかに点々模様があります。オスメスで模様の違いはありません。電線にとまっているほか、植栽の実を食べていることもあります。冬になると校庭などのひらけた場所でも見かけます。地面を数歩歩いてはピタッととまり、また数歩歩く特徴的な動きかたをするので分かりやすいです。冬の間はあまり鳴きませんが、春が近づくと鳴くようになります。

秋や冬の鳥をもっと見てみたくなったら、区内の緑が多い公園のほか、国立科学博物館附属自然教育園（品川区・港区）や東京港野鳥公園（大田区）に行ってみることをお勧めします。

（監修：国立科学博物館附属自然教育園　写真提供：しろがね自然写真クラブ）

編集：岩崎